



復元なつた巨大戦艦の凄さ 戦艦大和の復活

ものづくり日本の技と誇りの源泉は大和にあった

くさ か きみ んど
日下公人

(東京財団会長)

ひら ま よう いち
平間洋一

(元防衛大学校教授
元海軍中将)

と だか かず しげ
戸高一成

(呉市海事歴史科学館
大和ミュージアム)館長)



日下 四月二十三日にオープンした呉市海事歴史科学館

(大和ミュージアム)の戦艦大和の十分の一模型がたいへんな話題になっています。大和は世界最大の戦艦ですから十分の一といっても全長は二十六メートル。大きいだけではなく細部まで徹底的に再現してあるから、大砲の弾が出ないだけで模型というよりほんとうに十分の一の大和だといえる。どうしてこんなものを作ろうという話になったのですか。

戸高 造船の町、呉の造船技術の歴史と平和の大切さを伝える博物館を作ろうということで計画はスタートしました。そして「目玉はやはり呉が作った世界一の戦艦、大和でいこう。しかし大和が世界一であることを伝えるには模型も世界一でなければインパクトに欠けるだろう」という話になって、前代未聞の十分の一模型になったのです。

平間 大和に対する呉市民の思い入れの深さには尋常ならざるものがありますからね。たとえば市の中心部に市役所と市民会館が並んで建っていますが、これは大和の艦橋と煙突をモチーフにして作られています。ですから十分の一の大和を作ろうという話はすんなりまとまりました。

戸高 「作ろう」と言うだけなら二分の一秒で済みますか(笑)。

平間 問題はやはりお金でした。私は軍事の専門家としてプロジェクトに最初から参加していたのでそのあたりの事情を知っているのですが、市の予算だけで不足なのは明らかでした。しかし県の援助を仰ぐことは避けたかった。というのも広島県は原爆の犠牲になったこともあって全国でも有数の反軍思想の県です。兵器の模型を展示するのに何十億円も出

してくれるとは思えないし、出して欲したら逆に博物館の構想にどんな注文がつけられるかわかったものではない。

日下 予算はどのくらいでましたか。

戸高 六十五億円ぐらいの枠組みですが、十年以上の準備期間があつて資料収集などにかかった費用を入れるのもつとつていっていると思います。

平間 それを支えてくれたのが一般の募金。

戸高 私は博物館を作る仕事を長くやってきましたが、公共の博物館を作るのにこれだけ一般の募金が集まったのは異例のことではないでしょうか。呉市の商工会議所に募金会を立ち上げてもらったのですが、五億円以上集めていただきました。自分たちの博物館を作るんだという呉の人たちの意気込みを強く感じましたね。また募金は全国からも寄せられ、予算のかなりの部分をまかなうことができたのは特筆すべきことだと思えます。

摂津、河内ではなく大和であつた奇遇

日下 今年は大和が沈んでからちょうど六十年。やはりオープンはこの年にあわせたのですか。

戸高 それがまつたくの偶然なんです。最初はもつと早くオープンする予定だったのが思うように進まずにズレこんでいて、蓋を開けたらびつたり六十年と重なっていた。

日下 神霊のお導きというわけか。

戸高 そもそもこの艦に「大和」という日本そのものを表

す名前がついたことも、偶然ですが運命を感じざるをえないところがある。旧海軍では戦艦の名前を律令時代の国名からとっていました。「武蔵」「長門」「陸奥」といった具合に、

戦艦として相応しい旧国名を順番につけていった。大和も現在の奈良県を指す旧国名としてつけられたにすぎず、日本の総称としての大和、という特別な意識は海軍になかったと思います。実際、大和は二代目ですし、武蔵にいたっては三代目ですから、よくつける名前のひとつであつただけです。

平間 あの戦争がなければ、大和の次にはたとえば「紀伊」とか「尾張」といった名前の戦艦が出てきたわけですから、大和という名前は特別につけられたわけではない。

戸高 しかし日本で最後の戦艦で、しかも悲劇的な最期をとげた艦の名前が大和であつたことで、この艦は日本国民の心につつまでも残る存在になりました。これが「摂津」とか「河内」という名前だつたら、全国的にここまで人氣が盛り上がったかどうか(笑)。

日下 タイガースみたいなもので、その地域にしか受け入れられない可能性があつたね(笑)。

靖国神社の遊就館に行くと、入つたところに垂れ幕があつて和歌が書いてあります。「益荒男の悲しき命積み重ね積み重ね守る大和しまねを」。やはり大和でなければ感動を呼ばない。

平間 日本は「敷島の 大和の国」ですからね。

日下 入場者もずいぶん多いと聞きました。

戸高 オープンして一カ月で二十万人を超えました。とく

にゴールデンウィーク中は連日、通勤電車の中にいるような混雑ぶりで、正直驚いています。

平間 初年度四十万人、通年二十万人というのが予想でしたから、通年の一年分を一月でクリアした。しかも年間二十万人という数字自体かなり大袈裟な数字でしたからね。博物館の準備室が市議会を通すために無理やりひねり出したもので、私は最初、「こんなものを出したら恥をかきますよ。横須賀の記念艦三笠でさえ年間十万人を超えるのがやっつとだといふのに、どうして呉の田舎に二十万人も人が来るのですか」と言った。すると準備室の人は、「このくらいの数字を出しておかないと、赤字になるから市議会がうんと言わない」と。

戸高 私もこの数字を見て、最初は誰がこんな夢のような数字を作ったんだ、困ったなあと思いました(笑)。それがクリアできそうなのでほんとうに驚いています。

日下 一般の娯楽施設、たとえばディズニールランドは一千万円かけて作って年間一千万人の入場者を見込みました。よみうりランドあたりは百億円かけて百万人。それでいくと大和ミュージアムは六十五億円だから六十万入見込んでもよかったですになります。

戸高 それはアミューズメントパークやテーマパークのような娯楽性の高い施設の場合で、博物館としてこの数字は大変なものだと思います。

日下 大和にはそれだけの魅力があるということですよ。入場者はどのような構成ですか。

戸高 最初はものからマニアックな男の子ばか

りが来るのではないかと心配していたのですが(笑)、実際は家族連れと若いカップルが多いですね。それから車椅子の方が多いのも特徴です。高齢の方で普段は外出を面倒くさく思っているような方がわざわざ来てくださっている。メールでの問い合わせでも、車椅子の父親が行きたがっているがトイレはどうなっていますか、といったものもあります。

滑車ひとつまで忠実に復元

日下 最初にいったように、これは模型というより十分の一の本物の大和と比べていいものですから、製作には実際に戦艦を作るのと同じ手間隙がかかったでしょう。

戸高 実際に戦艦を作るより苦労した点がふたつあって、ひとつは時間がなかったことです。大和は設計から数えると七年の歳月をかけて作られました。こちらはオープンまで一年しか時間がありませんでした。模型の世界は細かく作るときりがなくて、百分の一の二、三メートルのものを作るのにも五年や十年かかることが珍しくありません。まず時間との戦いもつとも苦労した点です。

それから大和の場合、設計図はもとより、資料が残っていない部分がたくさんありました。しかし計画そのものが世界一を誇れるものを作ろうというところからスタートしています。わからないところをいい加減に作ってしまえば、胸を張って世界一と誇ることができません。そこで残っている図面、証言、写真などをできる限り集め、それでもわからない

東京図書出版会

あなたの本を出版しませんか

あなたの本が書店に並びます

☆ネット書店にも流通します。☆新聞一面書籍広告欄で広告します。☆日本図書館協会選定図書等に推薦します。☆初版から印税をお支払いします。☆共同出版で一定部数以上販売できた場合はご負担額の一部を返金します。☆特に優秀な作品には特典があります。

原稿をお送り下さい

ジャンルは問いません。A企画出版、B共同出版、C自費出版のいずれかをこちらから提案させていただきます。ご返事は2〜3週間程で致します。ご希望により原稿は返却しません(着払)。

原稿送付先

since 1977

出版文化の制度と継承
東京図書出版会 文春係

〒113-0033 東京都文京区本郷2-1-35 17 204B
原稿には住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業、電話番号、作品の概要(あらすじ)を明記して下さい。

案内書送付
します(無料)

TEL 03-5842-6410 FAX 0120-41-8080
E-mail info@tokyotosho.co.jp
URL http://www.tokyotosho.co.jp

らいの部品ですし、展示のときに動かす必要もないのですから、形だけで機能は必要ないのですが、これも設計図から起こして実際に動くものを完璧に復元しています。

また、大和の甲板には台湾檜が張られていたので、最初は同じものを使おうと考えていました。ところが木には木目というものがありませんから、同じ木材だとそこだけが十分の一ではなく一分の一に見えてしまう。そこで木目が台湾檜の十分の一に詰まっている材木を探して使いました。

日下 実際には作って見て発見はありましたか。

戸高 大和は世界最大の戦艦ということで大ききざかりに目が行くのですが、作ってみるとデザイン的に究極までシンブル化されていて、いらぬところを徹底的に削り込んであることがよくわかりました。大和には測距儀や砲塔など回転するものがたくさんあって、それが中央に寄せ集められているので一見するとぶつかりそうな気がしますが、実際に動かしてみると、当然ですが、全部ぎりぎりでお互いに干渉せずに動くようになっていて、

ところだけ造船技術的に合理的な結論を加えるという形で作っていった。たとえば大和の艦橋の前で水兵たちが撮った記念写真があります。それを引き伸ばして、後ろの艦橋にはどのくらいの間隔でリベットを打っていたのか数える。またリベットではなくボルトを締めている部分はどこどこだとかチェックしていく。こうしてわかるところは全部再現していきました。ですから出来上がった大和は、現在わかりうるすべての情報が入ったものであるという自信があります。

平間 それにしても、これを作った呉の造船所は不可能と思われような注文をよく聞いてくれましたね。私は自衛官時代、護衛艦の艦長をしていたので、呉のドックでよく艦の修理をしてもらいましたが、彼らはほんとうに艦をなめるように扱うんですよ。旧海軍工廠の工員魂が受け継がれている。戸高 俺たちが大和を作ったんだという呉の造船所のプライドでしょうね。

この大和はほんとうに細部に至るまで再現されていて、たとえばヤードの信号索についている小さな滑車。親指の先く

日下 設計者である松本喜太郎も、あと三万トンくらい大きくしてよかったら、設計も楽だったと話しています。そのくらい絞り込んである。

戸高 四六センチ砲という今日にいたるまで世界最大の大砲を積んで、四一センチというこれまた世界で最も厚い装甲を施した艦としては、非常にコンパクトにできたのが誇りだと松本さんは話しています。

ふたつのアウトレンジ作戦

日下 大和が世界一の戦艦であることは間違いないんだけど、一方で「無用の長物」を作ったという批判がありますね。口の悪い人は大和と万里の長城とピラミッドを「世界の三バカ」と呼んだりする。大和が活躍の場を与えられなかったのは日本海軍の用兵が悪かっただけで、大和批判のほとんどは後知恵でしかないと私は考えているのですが、お二人はどうですか。

平間 『戦艦大和』（講談社選書メチエ）にも書きましたが、航空時代に時代遅れの巨艦を作ったというのが大和批判の代表例ですが、当時の世界の戦艦建造状況を見ると、決してそうではなかったことがわかります。

まずアメリカは大和と同時期にノースカロライナ級戦艦二隻、それ以後にサウスダコタ級戦艦四隻、アイオワ級戦艦六隻と合計十二隻もの戦艦を建造しています。このうちアイオワ級二隻とアラスカ級二隻は戦争が終ったため途中でキャン

セルされました。アメリカを見ただけでも、世界大戦が終るまで世界が「大艦巨砲主義」だったことがわかります。

なんとなくアメリカが航空戦中心に戦ったような印象があるのは、真珠湾で戦艦をほとんど沈められて、太平洋方面で生き残ったのは航空母艦だけだったから、それで戦うしかなかったという事情があります。そのあと新しい戦艦ができてくると、どんどん戦場に投入していきますから、決してアメリカがいち早く航空時代に乗り換えたということはありません。

日下 イギリスも戦争中にバンガード級という巨大戦艦を建造し、竣工は戦争が終った一年後です。フランスにいたっては戦争が終った四年後にやっと完成しています（笑）。

平間 こういう流れからも、やはり大和は当時の兵器体系で考えて画期的で斬新な最強の海上戦力でした。大和のすごさはふたつのアウトレンジで説明することができます。ひとつは戦法としてのアウトレンジ、もうひとつは経済的なアウトレンジです。

戦法としてのアウトレンジはこれまでもよく指摘されています。相手の弾が届かないところからこちらの弾だけを一方的に送り込むことができれば負けるはずがない。そのためには相手より長い射程距離を得ることが必要で、巨砲であればそれだけ長大な射程を得ることができます。大和の主砲は四六センチ砲で一・五トンの弾を四十五キロ先に撃ち込むことができます。大和と同時期のアメリカの主力戦艦と比較すると、ノースカロライナ級のワシントンで四〇・六センチ砲、射程は四十キロにすぎません。イギリスの主力戦艦であ

ったキングジョージ五世級の主砲はわずか三五・六センチです。もし第二次世界大戦の初期に日本海海戦のような艦隊決戦があったなら、大和は無敵だったでしょう。

もうひとつ重要なのが経済的アウトレンジです。戦艦は巨砲を積み積むほど大きくならざるをえません。それは級数的に大きくなります。たとえば大和型のひとつ前の主力戦艦である長門は四〇センチ砲で三万九千トンですが、大和型で四六センチ砲になると六万四千トンと大きさは一気に跳ね上がります。これを建造するためには大きさに見合った巨大なドックなどの造船所の施設の拡張が必要ですし、停泊する軍港にも新たな巨大施設を必要とします。

戸高 大和の建造予算は一億六千万円で、これは新幹線を東京から下関まで作るのと同じ費用だといわれていますが、大和建造のために呉のドックを拡張したりいろいろな関連施設を拡充したりしていますから、実際にかかったお金ははるかに高いでしょうね。

日下 大砲を運搬するのに特別の船を作ったといえますか

らね。

平間 とくにアメリカの場合、太平洋と大西洋の両洋艦隊ですから、西海岸と東海岸の両方に海軍基地、海軍工廠が必要で、設備投資にかかる費用は膨大なものになります。さらにアメリカの戦艦はつねにパナマックス、つまりパナマ運河を通航できる幅でなくてはならないという制約を抱えています。それ以上の幅の戦艦を建造した場合、パナマ運河の拡張工事をするか、つねに南米回りで運用するかのどちらかを選ばなくてはなりません。このように、日本は大和を持つことでアメリカに多大な経済的負担を強いることができる。それが経済的アウトレンジです。

戸高 あえて欠点をあげると、防御がオーバースペックになっていたことでしょうか。大和の装甲は四一センチあって、これも世界一の防御力なのですが、これは大和と同じ四六センチ砲の砲弾に耐えられるように設計された結果そうなったものです。自分の主砲に耐えられる装甲を持つというのは戦艦設計の基本なのですが、四六センチ砲というのは大和

美しい時代へ—東急グループ

なぜか家より
よく眠れた。
ホテルなのに？



24時間快適な時間を

お届けしたいから。

4月1日より

全ホテルにテンピュール枕を

ご用意いたしました。

眠りの質にまでこだわる

私どもの新しい試みです。

※提携ホテルは除く。

東急ホテルズ

「東急ホテルズ東京予約センター」

TEL.03-3462-0109

www.tokyuhotels.co.jp

型しか持っていないわけで、ほかは四〇センチ砲ですから、それに耐えられる装甲で十分だった。

日下 あまりに教科書的に設計したために工程数も増え、余計な負担がかかった。

いかにして大和を使うべきだったか

戸高 大和ミュージアムはテーマとして、大和の明の部分と暗の部分を両方とも見てもらおうということ掲げています。その暗の部分でいうと、やはり使い方を間違ったということになりますね。

日下 先ほど大和批判を後知恵だといっておいて自分も同じ轍を踏んでしまうような気がするのですが、大和が沈んだとき、ほんとうに悔しい思いをした一人としていわせてもらうと、海軍は終始、大和の使い方を間違ったんです。

それは三つの時期に分けて考えることができます。まず真珠湾以前、つまり大和の大艦巨砲がそのまま通用した時代の使い方です。海軍は大和を秘密兵器扱いして、その存在を国民にまで隠し通してきましたが、そもそもそこが間違っていたのではないかと思うのです。平時の兵器には抑止力の働きがある。実物を見せないまでも、日本には四六センチ砲を積んだ戦艦があるぞと大いに宣伝しておけば、アメリカ人は世界中の人間は自分と同じことをすると考えていますから（笑）、きつと八隻くらいは作っているに違いないと疑心暗鬼になって、日米交渉でもそうそう無理難題をふっかけること

ができなかったかもしれません。そうこうして開戦が先延ばしになれば、そのうちドイツがモスクワ正面でソ連軍に敗れたニュースが入ってきて、日本はあの戦争に突入しないで済んだかもしれない。

平間 海軍軍令部には公表すべきだという意見もあったけど、大勢は秘密にすべしということだったようです。

戸高 いま北朝鮮はあるのかないのかわかりませんが、核兵器を持っていると吹聴していますね。彼らはこれをアメリカとの交渉カードに使っている。

日下 次は真珠湾攻撃で大成功を収めたあとです。真珠湾でアメリカの太平洋艦隊は壊滅、マレー沖海戦ではイギリスの東洋艦隊も壊滅と、あの時点で大和が戦う相手はいなくなっていました。つまり、あの瞬間、大和は不要の戦艦になってしまったのです。このとき大和の使い道について戦略的な大転換会議を開いておくべきでした。

こんなことをいうと空想戦記だと笑われるかもしれませんが、あのとき大和を戦略的に使っていればインドからイギリスを叩き出せたかもしれません。昭和十七年にシンガポールを陥落させて二万人近いインド兵が捕虜になっています。このときインドの独立運動家、チャンドラ・ボースはまだドイツにいますが、彼を早く連れてきて、このインド兵とともに攻め込ませればよかった。ガンジーですら日本待望論を唱えていた時期です。その応援に大和を使う。先ほどいったように、世界はまだ大艦巨砲主義です。ベンガル湾に大和が浮いているだけで、インド人は勇氣百倍でイギリス人を追い出し

たに違いありません。機動部隊も一緒に連れて行って、零戦を飛ばせばさらにいい。ミッドウェーに行ってる場合じゃなかったんだ。

平間 戦略的な使い方という点では、インド洋のマダガスカル沖あたりに大和を浮かべておくという手もありました。当時、アフリカ戦線はドイツのロンメルがエルアラメインを突破するかしないかという時期でした。イギリスは地中海をドイツに押さえられていたので、アフリカ戦線へはすべて喜望峰回りで大輸送船団を組んで補給していました。しかも東洋艦隊は日本に壊滅させられていますから、護衛なしの輸送です。これをなんとか止めてほしいという要請がドイツから繰り返し来ていたのですが、日本は潜水艦を少し送っただけです。このとき大和を主力とした戦艦艦隊がインド洋の航路上にいただけで、イギリスの補給は止まり、ロンメルが勝利していた可能性が高い。

日下 最後は陸上砲撃をするための浮き砲台として使うという方法です。とくにガダルカナル戦のときは、アメリカの飛行場攻撃に大和を使うという意見があった。戦艦の主砲を飛行場攻撃に使うというアイデアはほかの戦場で実際に試され、有効であることがわかっていましたから、ガダルカナルでは大和を使うべきだったのです。しかし、陸上攻撃に使う通常弾の準備がなく、対艦用の徹甲弾では効果が薄いというのと、もし大和を失えば取り返しがつかないというので、結局出撃は見送られました。

平間 戦艦というのは戦争の道具である以上に国家の軍事

力の象徴のようなところがありますから、どうしても沈んだら困るという意識が働きます。実際、ドイツではビスマルクを撃沈されて国民の士気が大いに落ちた。

戸高 とくに日本の場合、貧乏海軍がやっつのことで作った艦であるという意識が強かった。これを沈められたらあとがないという意識がつねにあって、宝の持ち腐れにしてしまいました。

日下 ifばかりをいっても仕方がないのですが、そもそも真珠湾攻撃なんてやる必要がなかったんです。アメリカの計画では、開戦から一週間後には太平洋艦隊をフィリピン方面に出すことになっていましたから、日本はそれこそ明治以来想定してきた邀撃漸減作戦で迎え撃って、艦隊決戦に持ち込めば、敵の戦艦のみならず航空母艦も一気に沈めることができた。大和の力をもっとも發揮できたはずの場面を、日本海軍はみずから捨ててしまったのは痛恨の極みです。

平間 結局、最後は沖縄特攻で大和は沈むことになりました。この特攻作戦は当時から今日までたいへん評判の悪いものですが、私は大和が特攻で散ったことは、世界が日本に対して抱く尊敬心の源泉のひとつになっていると考えています。私は海上自衛官出身ですが、世界のどこの海軍も日本の海上自衛隊には一目おき、日本の軍艦旗に敬意を表します。それは、我々が帝国海軍の末裔であるからで、その帝国海軍の象徴が大和なのです。

戸高 外国人は大和を日本人以上に高く評価しているところがあります。理由は世界一の軍艦であるということもありま

すが、軍人としての義務に殉じた最期に感動しているんです。

平間 戦後教育を受けた日本人は、何よりも人命が大切であると考えますが、実は人の命よりも大切なものがあるのではないか。そのことは外国人の文章から知ることができません。たとえば大和研究者で、『戦艦大和の運命』を書いた英国人記者、ラッセル・スパーは、「戦艦の勇敢な乗員たちは見事に死んだ。英雄的な敗北を偉大な勝利以上に高く評価する国は、世界で日本と英国だけにちがいない」としています。

もし大和が特攻で沈むことなく、長門のように柱島の沖に空襲で傷ついた無残な姿をさらしたままアメリカに接収されていたら、それを日本国民は許したでしょうか。我々は大和を今日まで誇りに思うことができたでしょうか。ロシア海軍軍令部が日露戦争後に編纂した『露日海戦史1904-1905年』には、老朽艦隊を率いて日本海海戦に臨み、戦わずして東郷艦隊に降伏し、二千四百人の命を救ったネボガトフ司令官について、こう評しています。「露国民ハ感謝セシヤ」「露国ノ歴史ハ之ヲ是認シタルヤ」と。我々が大和を今日まで愛し続けるのは、こういった美意識が集約されているという側面もあるのではないのでしょうか。

また、大和は乗組員に対して特攻前、家族に別れを告げてこいと休暇を与えています。出撃したら生きて還ってくることでできないのはわかっていきますから、戻ってこない水兵がいてもおかしくないのに、「俺がいなければ、あのバルブは誰が締めるんだ」といって、三千三百人を超える乗組員がみんな戻ってきた。

日下 『戦艦大和ノ最期』の吉田満さんは、それだけ使命感に燃えた乗組員たちをどうして私的制裁で殴るようなことをしたのか、と書いています。そういう日本人の血肉を感じさせるエピソードがあるから、我々は大和に感動する。

平間 もうひとつあげると、大和建造があれだけ大きな国家プロジェクトだったから、優れた造船技術や科学的管理法などのさまざまな恩恵を戦後に残すことができたのだと思います。最近では八方美人的なちまちましたプロジェクトしかないから日本の科学技術はぱっとしない。大和は貧乏人の一張羅と揶揄されますが、それを作ったから人様にお見せすることができたのであって、作らなければずっと野良着でいるしかないのですから(笑)。

大和の発想を受け継ぐプリウス

戸高 大和は攻撃力も防御力も世界一の戦艦だったことはたしかですが、私はそれ以上に、実際に建造した呉海軍工廠の「現場力」が世界のトップであったことに注目しています。つまり設計だけならアメリカもイギリスもできました。五〇センチ砲を積んだ七万トンの艦だつて一定の勉強をした人なら図面を書くことだけはできます。しかし、それはまさに絵に描いた餅であつて、鉄鋼から大砲を作り、装甲を作り、それを組み立てて艦にするという一連の現場の能力が突出してすごかった。当時、四六センチの主砲を載せた艦を完成する能力は、おそらく呉の海軍工廠にしか存在していなかったと

思います。

平間 そういうノウハウは大正時代、伍堂卓雄造船部長の頃から蓄積されていきました。工程管理、原価計算、安全管理といった科学的な管理方法ですね。一人の工員が機械から機械へどう動くかを描いて移動するのが合理的か、またどのくらい時間をかけるのが効率的か、現場で主任がストップウォッチを持って測りながら計算していったのです。

日下 そういう管理方法はいまアメリカで流行っていますね。こんどのイラク戦争でアメリカのラムズフェルド国防長官はRMA（軍事革命）だなんていって、必要な場所に必要な人数と物資をピンポイントで送り込むシステムを採用したと威張っています。しかし自衛隊に言わせると、あんなのはクロネコヤマトの真似であると（笑）。そういうことを考えるのは昔から日本人の特技なんだ。トヨタのカンバン方式にしてもね。

戸高 こういう総合力としてのモノ作りのすごさというのは、やはり大和建造の中に集約して現れています。

日下 私は、大和の建造は世界に日本人の「全民族集中力」を示したというふうにも考えています。アメリカ人はよく、日本人はなんでもすぐに足並みをそろえて、心をひとつにして成し遂げる、アメリカ人はそんなこと国防以外では考えられないといえます。たしかに家電製品だろうと自動車だろうと、関連下請け産業まで全部が足並みをそろえ、心をそろえて製品の開発生産を行うから、日本製品は優れている。いま自動車ではハイブリッドカーがブームで、ハリウッドで

はこれに乗ることがセレブの条件のようにいわれています。トヨタのプリウスのエンジンルームを覗くと、狭いところに巧みにガソリンエンジンと電気モーターが配置されていて、これこそ大和の詰め込み精神なんだと感じます。

もうひとついえば、日本はいつも時代の最後に最高のものを作り、それができたときには世界は次の時代に入っているというのを繰り返してきました。たとえば江戸時代、世界一の農業を完成させている間に、欧米は工業時代に入っていました。そして工業で世界一になったと思ったら、こんどはアメリカはIT時代だという。そんな追いかけっこの中で日本がいま現在、時代を先取りしているのが漫画、アニメの世界です。欧米のオタクたちは日本のアニメを垂涎の眼差しで見えています。その先鞭をつけたのが奇しくも『宇宙戦艦ヤマト』で、ここでも大和が象徴になっていますね（笑）。

平間 いま大和とミュージアムに人が集まるのは、日本人が民族的な自負と自信を求めているのに大和がいちばんいいという心情も関係しているではありませんか。

戸高 同時に六十年という歳月も大きいのではないでしようか。やはり兵器ということで戦後、公立博物館では扱いきれなくて隠されていた大和ですが、六十年たつてイデオロギーは別として歴史的事実として客観的に見る事ができるようになった。終戦時に生まれた人が六十歳になって、やっといい面も悪い面も冷静に見られる時代になったということ。冷静になって見れば、やはり大和が世界一の戦艦であることに間違いはないのですから、あらためて感動するのですよ。